

「ご当地検定」に関する一考察

日本大学理工学部 学生会員 ○小林弘典
 日本大学理工学部 非会員 野水雅之
 日本大学理工学部 正会員 伊東孝

1. はじめに

観光に対する意識と「地方」に対する関心が高まっている現在、地域観光のエキスパートを認定する「ご当地検定」が盛り上がりを見せつつある。当初は特定のエリアやテーマについて深く専門的にガイドすることができる人材の育成を目指し開始された「ご当地検定」は、その後全国に展開し始め、目的も観光振興や市民の観光に対する意識の高揚など様々になりつつある。

そこで本研究では、「ご当地検定」を実施または実施予定の全国 14 団体を対象としたアンケート調査などによって現在の実施状況を整理し、「ご当地検定」が抱える問題点や課題について考察する。

2. 「ご当地検定」とは

「ご当地検定」とは、それぞれの地域における歴史や文化、観光、習慣に関する知識をもつ人を検定試験によって認定する制度であり、その地域の商工会議所や自治体、有志団体が主催する。また受験資格に関する規定は、18 歳以上や日本語が読めることなど、ほとんど無いに等しく、誰もが受験できるものとなっている。しかし段階的に級が設定されていたり、受験対策のためのセミナーやテキストなども発売されており、決して貧素なものではない。

日本で最初の「ご当地検定」は財団法人東京観光財団と東京商工会議所が主催し、2003 年に実施された「東京シティガイド検定」が始まりである。その後札幌商工会議所が実施する「札幌市シティガイド検定」や京都商工会議所が実施する「京都観光文化検定」などが開始された。特にこの「京都観光文化検定」は第 1 回目の受験者数が 9,000 人を超えるものとなり、いくつかの商工会議所や自治体が、「ご当地検定」を開始するきっかけになったと考えられる。

現在実施中の 10 検定を表 2-1 に、実施を計画している 5 検定を表 2-2 に示す。

表 2-1 実施中の「ご当地検定」

名称	概要	主催
東京シティガイド検定	2003年11月9日に第1回試験実施	(財)東京観光財団・東京商工会議所
札幌シティガイド	2004年10月31日に第1回試験実施	札幌商工会議所
ナマハグ伝道師認定試験	2004年11月27日に第1回試験実施	秋田県男鹿市観光協会
京都・観光文化検定	2004年12月12日に第1回試験実施	京都商工会議所
九州観光マスター検定	2005年10月30日に第1回試験実施	福岡商工会議所
金沢検定	2005年11月20日に第1回試験実施	金沢経済同友会
萩ものしり博士検定	2005年11月27日に第1回試験実施	萩ものしり博士実行委員会事務局
北海道フードマイスター	2005年12月4日に第1回試験実施	札幌商工会議所
岡山観光文化検定	2005年12月4日に第1回試験実施	岡山商工会議所
宇和島「通」歴史・文化検定	2005年12月10日に第1回試験実施	愛媛県宇和島市若者塾

表 2-2 実施計画中の「ご当地検定」

名称	概要	主催
姫路観光文化検定	2006年3月頃に第1回試験実施予定	姫路商工会議所
長崎歴史文化観光検定	2006年4月頃に第1回試験実施予定	長崎商工会議所
鹿児島観光文化検定	2006年4月16日に第1回試験実施予定	鹿児島商工会議所
奈良まほろばソムリエ	2007年1月頃に第1回試験実施予定	奈良商工会議所
松本検定	2007年2月頃に第1回試験実施予定	長野県松本市

3. アンケート調査

本調査ではすでに「ご当地検定」を主催し実施している 9 団体と、今後検定を主催しようと計画している 5 団体の 2 グループを調査対象とした。

アンケートの回収状況は実施中団体から 5 通（表 3-1）、実施計画団体から 4 通（表 3-2）を回収することができた。

表 3-1 アンケートを回収した実施中団体

名称	札幌シティガイド検定	北海道フードマイスター	ナマハグ伝道師認定試験	岡山観光文化検定	萩ものしり博士検定
主催団体	札幌商工会議所	札幌商工会議所	秋田県男鹿市観光協会	岡山商工会議所	萩ものしり博士実行委員会事務局

表 3-2 アンケートを回収した実施計画団体

名称	松本検定	奈良まほろばソムリエ	姫路観光文化検定	長崎歴史文化観光検定
主催団体	長野県松本市	奈良商工会議所	姫路商工会議所	長崎商工会議所

調査結果から、検定を以下の二つのタイプに分けた。一つ目が“ホストタイプ”の検定である。地域で観光客を迎える人々に、その土地の魅力に気づい

キーワード：ご当地検定 歴史 文化 観光

連絡先：〒274-8501 千葉県船橋市習志野台 7-24-1 電話 047-469-5572 FAX 047-469-2581

てもらうことを目的とした試験がこのタイプである。二つ目が“ゲストタイプ”の検定である。地域の伝統や習慣などの魅力を、検定という形で紹介するタイプである。「ご当地検定」を1つの観光資源としている。

今回回答を得られた検定で“ホストタイプ”は6つで、「札幌シティガイド」「岡山観光文化検定」「北海道フードマイスター検定」「姫路観光文化検定」「松本検定」「長崎歴史文化観光検定」である。“ゲストタイプ”の検定は2つで、「ナマハゲ伝道師認定試験」「萩ものしり博士検定」であった。また「奈良まほろばソムリエ」は2つのタイプが混合しており、設定されている級によって異なる。

今後の課題として、検定合格者への特典や優遇措置などの設定がある。現時点では合格者への明確な特典を示しているところは少なく、継続的に受験者を確保していくには特典の設定は避けては通れないと考える。また検定合格者のフォローアップは、前述した“ホストタイプ”の検定では必ず必要となってくることが考えられるので、資格の有効期限などとあわせ、検討する必要があると考える。

4. ヒアリング調査

アンケート調査の結果から、「検定を実施するに当たり参考にしたものは？」という質問に対し、ほとんどの回答が「京都観光文化検定」（以下「京都検定」とする）をあげていた。これは、「京都検定」が成功していることと認知されているからだと考えられる。そこで2005年12月26日、「京都検定」の主催団体である、京都商工会議所に出向き、担当者の方に約1時間のヒアリングをおこなった。

「京都検定」は2004年12月12日に第1回目を実施され、初回の受験者数が9,801人、また第2回は2005年12月11日に実施され受験者数が12,662人で、日本で最も受験者数の多い「ご当地検定」である。計画当初はこれほど人が集まるとは考えておらず、1万人近い応募があり驚いたそうである。費用については、明確な回答は得られなかったが、初期費用が約1千万円強とのことである。初期費用を回収し、採算が取れるには約3年かかるそうである。近年の不況のあおりを受け会員からの会費収入は減っており、財政は以前と比べ楽なものではない。そのため、各種検定試験の検定料を収入源にしようと考えている。

「京都検定」は資格試験のようにターゲットを特定の受験者に絞るのではなく、力試し的な内容であ

り、広く門戸を開いている。また、大学や企業などへの積極的なプロモーションをおこなった。主催者の努力だけでなく、京都府民の地域に対する知識を試してみたいという気持ちや、観光に対する意識の高揚が高かった結果、京都府内からの総受験者数が1万5千人を超えた。さらにゲスト側の受験者が多いのは「京都」という土地がもつ魅力が関係している。土地の持つ強いブランド力が日本全国に「京都ファン」を生み出していると考えられる。そのため、テキストの不備がメディアで報道されたことにより検定が全国に知られ、1万人近い「京都ファン」の受験の引き金になったと考えられる。成功の原因として、「受験者のターゲットを絞らないスタンス」「予想外のメディア効果」「土地の持つブランド力」「積極的なプロモーション活動」の4つの事柄が大きいのではないだろうか。

5. まとめ

「ご当地検定」が開始され3年である。若い検定だけに、受験者の確保や合格後のメリットづくりなど課題は多い。しかし、世の中が地方へとシフトしている流れの中で、人びとの目が今「ご当地」に向けられていることは事実である。その中で、観光産業ではその地域にしかないオリジナリティが今後重要となる。もてなす側に高度な知識がなければオリジナリティは発揮できない。そのため観光産業に力を入れようとする地域では、「ご当地検定」の必要性は高くなるはずである。助成金などの活用がハード面からソフト面に移行している現在、観光施設を整備するだけでなく、観光関連の人材育成をするよい機会であると考えられる。今後、その土地の持つブランド力を伸ばすためにも、人材育成は重要なことであり、避けては通れない道である。また、観光資源も特別な施設をつくるなどのハード的な要素だけでは新しさが無く、観光客は興味を示さなくなるだろう。施設などのハード的な観光資源だけでアピールするよりも、ソフトの部分もあわせアピールすることができたならば、それは大きなアドバンテージになる。このような時に、観光と絡め長期的に人をひきつけておきやすい「ご当地検定」はソフトな観光資源となるだろう。地域内の人々に働きかけるだけでなく、検定そのものが観光商品となって、地域内外にその土地をアピールする「ご当地検定」は、まちおこしのツールとして大きな可能性を秘めていると考える。